

# 市政フラッシュ

## 出生祝金を支給しました

子どもの出生を祝福し、次代の社会を担う子どもの健やかな育ちを応援するため、本年度から、第3子以降の出生児1人当たり10万円の出生祝金を養育者へ支給しています。

5月19日、市では2番目、市役所本庁舎では初めての受給者に、多次市長から祝金が手渡されました。受け取った保護者は「制度のことは市広報で知っていました。子どものため的大事に使います」と話しました。

※通常、祝金の支給は口座振込みに なります。



支給条件など詳しくは市民課にお問い合わせください

## 地域の人とふれあい、学ぶ

5月14日、放課後子ども教室「大蔵学び隊」の開講式が大蔵地区公民館で行われました。

これは、放課後や週末などに、地域の人が小学生と一緒に活動し、交流を図ることを目的に行われるもので、大蔵地域自治協議会と交流と魅力づくり部会を中心年間30回の交流事業が予定されています。

開講式に参加した早田和典君（大蔵小5年）は「座禅会と和田山郷土歴史館の見学が楽しみです」と期待に胸を膨らませていました。



開講式の後、地域の人とダンスを楽しみました

## 我がまち朝来 再発見

第43回

古墳の装置(長持形石棺)

皆さんは「古墳」という言葉から何を連想されるでしょうか。人々が住んでいた集落や土器も「古墳」という言葉で表現される人もいますが、正しくは「古墳」とは人を葬るための「お墓」なのです。

古墳の中央には、人を葬るための装置がつけられました。いわゆる「棺」ですが、木であったり石であったり材質や形も様々。それが次第に近畿地方を中心とする王権の傘下に組み入れられ、埋葬施設の形も統一されたものになってきます。その中でも河内・大和の王とともに地方の王にだけ

採用することを許された棺の形。長持形石棺を紹介します。



市内所在の長持形石棺(その1)

この長持形石棺というネーミングの由来となった「長持」とは、日本の民具である長持（主に近世に用いられたもので、衣類や寝具の収納に使用された長方形の木箱）に良く似ていることからその名前が付けられました。

冒頭にも紹介したように、古墳時代の被葬者を埋葬する目的で作られた棺の中でも、この長持形石棺は古墳時代中期に大和の大王をはじめとする有力首長層だけが使用することができた、いわゆるブラ